

国内株式市場の投資環境と今後の見通し

2015年7月23日

国内株式市場は、日経平均株価の年初来騰落率が+18.0%（7月22日終値時点）となるなど、概ね堅調な推移となっています。ギリシャ情勢や中国株式市場の落ち着きなどを受けて、「恐怖指数」と呼ばれる日経平均ボラティリティ・インデックス（VI）が足元で急低下しており、投資家のリスク回避姿勢は和らいでいると考えられます（図1）。

海外情勢が落ち着きを取り戻す中、良好な需給環境などを背景に、国内株式市場は上値を試す展開になることが予想されます。

－本レポートのポイント－

＜良好な需給環境が整う国内株式市場＞

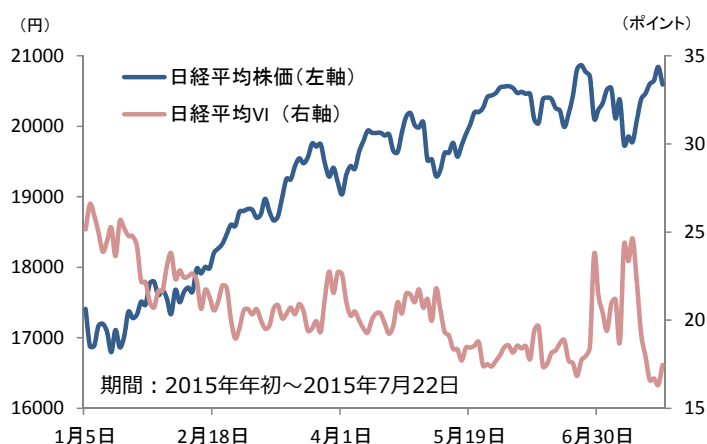
- ・ 国内株式の買い余力を残す公的資金
- ・ 押し目買い意欲の強い個人投資家
- ・ 短期的なポジション調整は一巡した可能性

【国内株式の買い余力を残す公的資金】

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の開示資料によると、2015年3月末の運用資産残高は国内株式比率が22%となり、目標とする基本ポートフォリオの25%を下回っています（図2）。また、今年10月にGPIFと基本ポートフォリオの統一化を予定している国家公務員共済組合連合会、地方公務員共済組合連合会、日本私立学校振興・共済事業団の3共済の2015年3月末の国内株式比率はそれぞれ12.5%、21.6%、15.3%と、GPIFが目標とする国内株式比率を下回って推移しています。

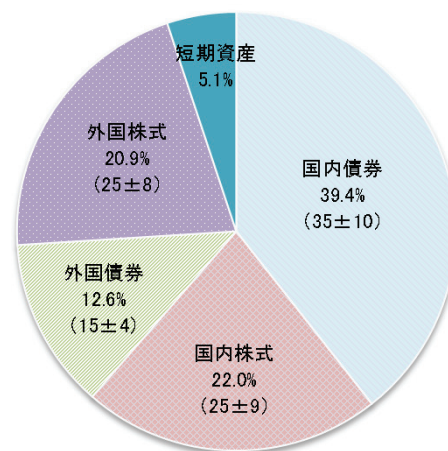
GPIFとこれら3共済が今後、目標とする国内株式比率に引き上げると仮定すると、4兆円規模の買い需要が発生すると見込まれ、需給面で日本株を下支えすることが期待されます。

（図1）日経平均株価と日経平均VIの推移



（出所） Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

（図2）GPIFの資産構成割合（2015年3月末時点）



※括弧内はかい離許容幅。単位は%

（出所） GPIF資料より岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

【押し目買い意欲の強い個人投資家】

東京証券取引所が発表している投資部門別売買動向によると、7月第2週の個人投資家の買い越し額は5272億円となり、約半年ぶりの水準に達しました。また、投資信託も直近2週連続で買い越しとなっています（図3）。

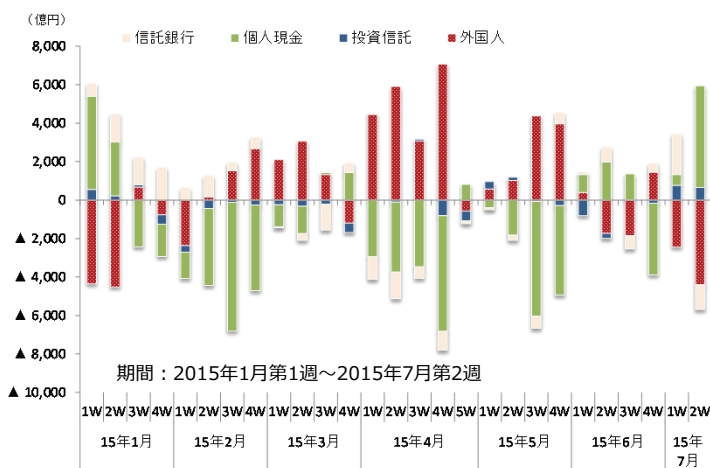
ギリシャのデフォルト懸念や中国株の急落など外部環境の悪化を受けて、日経平均が2万円を割り込んだ水準では、個人投資家が積極的に押し目買いを行ったことが窺えます。個人投資家は年初から半年間で、4兆円程度売り越していることから、押し目買いの余力は大きいものと考えられます。

【短期的なポジション調整は一巡した可能性】

東京証券取引所が発表している裁定買い残（当限）は、7月10日時点で2兆4625億円となり、1月23日以来の水準にまで低下しています（図4）。株価指数先物が先行して下落する局面で、割安となった先物を買戻して現物株を売る裁定解消が行われたと考えられ、外国人投資家などのポジション調整が一巡した可能性が示唆されます。

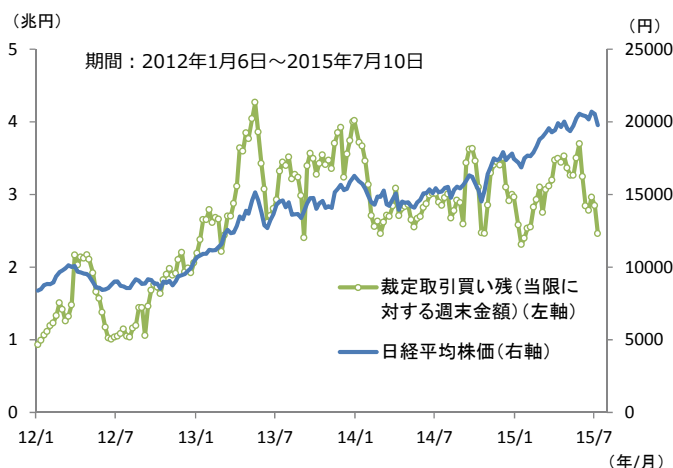
裁定買い残の減少は潜在的な売り圧力を低下させ、日本株の先高期待につながりやすいと思われます。良好な需給環境を背景に、ファンダメンタルズの改善や企業業績の向上が評価され、国内株式市場は上値を試す動きになるものと考えます。

（図3）投資部門別売買動向（週次）



（出所） Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

（図4）裁定買い残と日経平均株価の推移



（出所） Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

以上

（作成：投資情報部）

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用

購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）

- お客様が換金時に直接的に負担する費用

換金時手数料：公社債投信 1万口当たり上限108円（税抜100円）

その他の投資信託にはありません

信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担

：純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

その他費用・手数料

監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。

※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社

事業内容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業

登録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）